

「不発弾処理に思う」

先日、自宅のある町内で 250 キロ爆弾の信管を抜く不発弾処理が実行されました。国内のそういったニュースは聞いたことがありましたが、家族と生活している近所に不発弾が埋まっていたという事実、あらためて考えさせられました。

そして、その作業に伴う避難の規模にも、事の大きさを感じずにはられません。半径 300 メートル以内の住民は完全に避難させられ、地下鉄もストップし、名古屋高速も通行止めとなりました。

京都から不発弾処理の自衛隊がやってきて、2500 万円の費用をかけて信管は抜かれ、無事作業は終了しました。私の生まれたのが広島原爆記念日であることもあり、井伏鱒二の「黒い雨」は中学の時、読書感想文の課題として読みました。

今回、不発弾処理の後、もう一度ページをめくってみました。「いわゆる正義の戦争よりも、不正義の平和の方がいい」という言葉は、経験した者の心には重く響くでしょう。

幼い頃から、昭和一桁生まれの母親に戦争体験談を聞かされてきました。「私たちには青春時代はなかった。空襲警報の不安が無い時代に、もう一度やり直したい」と。

戦後 74 年、鯉城生の方々もほとんど「戦争を知らない世代」になりつつあります。平和な日々の中、どんな機会であっても当たり前になってしまっている「平和」として「戦争」について考えてみるのが、失われて二度と戻らない多くのものに対しての追悼になるのかもしれない。

【34 期文化専攻 / 泉 由美子】

新刊図書（7月～9月）

著者名	著書名	出版社名
嘉山 直晃	死神の選択	産業編集センター
真梨 幸子	ツキマトウ警視庁ストーカー対策室ゼロ係	KADOKAWA
多川 俊映	蘇る天平の夢	集英社
古谷田 名	無限の玄、風下の朱	筑摩書房
原田 マハ	常設展示室	新潮社
赤川 次郎	鼠、恋路の闇を照らす	KADOKAWA
朝井 まかて	草々木一	講談社
朝比奈あすか	人生のピース	双葉社
天野 純希	雑賀のいくさ姫	講談社
丹羽 宇一郎	人間の本性	幻冬舎
萩原 浩	それでも空は青い	KADOKAWA
久坂部 羊	介護士 K	KADOKAWA
西條 奈加	雨上がり月霞む夜	中央公論新社
高村 薫	我らが少女 A	毎日新聞出版
萩原 博子	年金だけでも暮らせます	PHP 新書

鯉城会図書ボランティアからの寄贈新刊図書（7月～9月）

著者名	著書名	出版社名
おざわ ゆき	傘寿まり子⑨	講談社
金原 ひとみ	アタラクシア	集英社
山田 詠美	つみびと	中央公論新社
村山 由佳	猫がいなけりゃ息もできない	集英社
知念 実希人	神のダイスを見上げて	光文社
吉川 永青	第六天の魔王なり	中央公論新社
今尾 文昭	天皇陵古墳を歩く	朝日新聞出版社
桂 望実	僕は金になる	祥伝社
三崎 亜記	30センチの冒険	文藝春秋
末野 帰子	会社を綴る人	双葉社
生馬 直樹	偽りのラストパス	新潮社
稲葉 稔	天下普請	双葉社
伊吹 亜門	刀と傘	東京創元社
内田 春菊	ダンシングマザー	文藝春秋
中島 京子	夢見る帝国図書館	文藝春秋
降田 天	偽りの春	KADOKAWA
勝山 海百合	厨师、怪しい鍋と旅をする	東京創元社
オーガニックゆうき	入れ子の水は月に轢かれ	早川書房
寺地 はるな	正しい愛と理想の息子	光文社
中路 啓太	ゴーホーム・クイックリーGHQ	文藝春秋
中山 七里	静おばあちゃんと要介護探偵	文藝春秋
鳴神 響一	斗星、北天にあり	徳間書店
村上 芽	SDGs 入門	日本経済新聞出版社
東山 彰良	夜汐	KADOKAWA
桐野 夏生	とめどなく囁く	幻冬舎